

寒冷地形談話会通信

92年第3号 92/06/05発行

事務局：東京学芸大学・地理学教室・小泉研究室内
〒184 小金井市貫井北町4-1-1

1. 5月例会の報告

5月27日、本年度第2回例会が五百沢智也先生をお呼びして明治大学で行われました。多くの参加者（23名）があり、活発な議論が行われました。また、場所を変えて持たれた懇話会では先生が現在興味を持たれているタキタロウの話なども飛び出し、なごやかな雰囲気となりました。発表内容および配布プリントの要旨は以下の通りです。

写真判読による日本アルプスの氷河地形

日本アルプスの氷河地形について、演者は自分の研究史を講じた。

五百沢智也（1962）は、槍沢・横尾谷などのU字谷の末端に位置する古い氷河による堆石堤について報告した。そしてその古い氷河地形の形成期を便宜上横尾氷期と呼んだ。演者は、この古い氷河地形が日本アルプス全域にわたっていかに分布しているかを調査した。このことは第四紀編年上横尾氷期の存在が妥当であることを学際的に確かめる基礎資料にもなる。山岳地の調査は長時間を必要とし、さらにはかなりの困難が予想されるので演者は写真判読を主体とし、部分的な点検によってそれを確かめる作業を実施した。

判読に使用した写真は米軍撮影による約4万分の1の空中写真および林野庁その他の撮影による2万から2万5千分の1の空中写真あわせて約1500枚である。演者は国土地理院に勤務していたので空中写真の入手と使用は比較的楽であった。

氷河地形の認定には現存する山岳地で知られている氷河地形や堆積物の作る地形、その作用に関する種々の知識を参考にした。例えば、今西錦司（1952）のヒマラヤ学術探検の成果などである。

その結果、日本アルプスでは新旧両氷河地形が北アルプスで最も広く、中央・南アルプスではそれより狭く分布すること、その高度も北アルプスに低く、中央・南アルプスで高いことが明らかとなった。氷河の形は、氷期以前の地形に支配されており、それを大幅に変更することはなかったようである。横尾氷期あるいはそれと同じような時期に作られた古い氷河地形は雪線高度が低かったため大規模な雪氷コンプレックスを形成したようである。山頂部に小起伏面の存在するところでは谷だけでなく斜面も占める万年雪～氷が存在して色々な方向に派出する氷河がみられた。槍・穂高連峰付近は小型の樹枝型ともいえる合流型の氷河がみられたようである。

古い氷河地形で最も普通の形は単一の万年雪涵養区と単一の氷舌からなる単一型谷氷河と圈谷氷河の地形である。前者の例としては南ア大仙丈沢、立山・タンボ沢、中ア。正沢上流などの地形が挙げられる。後者の例は、北ア・抜戸付近の日独岩圈谷などがある。演者は万年雪涵養区などの概念を取り扱う際に、故今西錦司氏との交流を思い出すものである。

演者は以上のような氷河地形の認定方法を用いて、日高山脈、飯豊山地、月山、越後山地などでも氷河地形を確認したが、地形がはっきりしないところもあるため若手研究者の現地での確認作業が望まれる。日本アルプス以外の山地における氷河地形を本格的に扱うのは、大関（1916）などの初期の地形学研究者以来のものになるだろう。

【文責 酒井】

2. 夏の学校のお知らせ

本年度の夏の学校は8月18日～19日の1泊2日で月山で行うことを予定しています。案内者は五百沢智也氏、苅谷愛彦氏（都立大 院）、土屋 徹氏、小林 詢氏（信州大）にお願いし、氷河地形と残雪凹地、高山土壌について案内していただきます。現地ではテントの設営ができず全員小屋での宿泊となりますので、予め参加人数を確認しておきたいと思います。参加なさる方は7月の例会の席で事務局まで申し出てください。また、郵送で参加申込をなさる方は7月中に事務局までご連絡ください。

参加者の方には詳しい予定をお知らせいたします。

3. 住所録の変更

川澄隆明（自宅）

小川真由美（自宅）

（所属）

式 正英（所属）

津沢正晴（所属）

江口 卓（所属）

転居、所属の変更や会員名簿に誤りがありましたら事務局までお知らせください。

4. 7月例会のお知らせ

本年度第3回例会は 7月19日（土）15:00～、明治大学（駿河台校舎）を予定しております。会場は当日、大学院棟入口に掲示してあります。発表者は以下の通りです。

- ・原田暁之氏（株）アイ・エヌ・エー
- ・戸田真夏氏 筑波大 院

皆様振るってご参加ください。

5. 会費納入のお願い

会費納入ありがとうございます。引き続き受け付けていますのでまだの方はお早めをお願いします。納入状況の照会などありましたら、往復ハガキで事務局までご連絡ください。

寒冷地形談話会 東京0-171342 1,500円/年